スポーツボランティア交流「芋煮会」報告　～　第４回、山形・仙台芋煮対決

◆　２００８年9月２１日（日）　◆　山形市馬見ケ崎河原

◆　参加　新潟・山形・仙台・東京のスポーツボランティア　２５名

それは２００５年、東北ホームタウンサミットの際に冬の山形に集まったメンバーが、せっかくなので山形名物の芋煮を食べるイベントをやろう、ということで始まりました。
もともと山形の芋煮はしょうゆ味、宮城は味噌味ということでやがて「鍋対決」がキーワードとなってきたようです。
あれから４年、山形をはじめ各地の窓口メンバーが熱心に呼びかけ、毎年、３県以外の飛び入り参加者を加えて一度も途切れることなく続いてきました。

もともと山形は芋煮会で有名な地域であり、その中でも例年会場となっている「馬見ケ崎河原」には、水道・トイレなどが完備、まさに「芋煮会」のために用意されている場所です。

予報が時折雨となっていたため、山形のメンバーが前日に橋の下の場所を確保してくれ、集合時間に集まった参加者は濡れることなく楽しむことができました。まずは鍋の土台となる石を河原から男性陣が集め、女性陣はさっそく材料を刻む場所を作ります。このあたりの分担が特に誰かが号令をかけなくても決まるのはやはり経験でしょうか。今回は山形風が二つ、宮城風が一つ、玉こんにゃく用がひとつに、謎の鍋が一つと合計五つの鍋が準備されました。さすがにこれだけの数となると、火おこしも大変でした。はやくもビールが配られ、焼肉やソーセージが焼きあがりマイはしをもって集まるように声がかかりました。

いくつかのグループに分かれて談笑しながら鍋の中身の世話をしていると、いつの間にか私たちのまわりにも芋煮を楽しもうという別のグループが増えていきます。本格的には１０月から１１月なのですが、気の早いの人々は意外と多いようです。芋煮の出来上がるまでのこの時間は貴重な情報交換の時間となっています。

　やがて１２時が近づくころ、無事に「芋煮鍋」が完成、「自分のおわんとはしを持って集合してください」と声がかかります。（コップも含めてなるべくごみをださないことは、日

ごろスポーツ会場で観客のだすごみと格闘している仲間ならでは決まりごとです）

まずは「玉こんにゃく」、しょうゆがしみてやや大きめのこんにゃくははしに刺してふるまわれ、あっという間に胃の中に、次に山形と宮城の芋煮は、具がいっぱいでバランス良く食べないとお腹はすぐいっぱいになります。見事だったのはその後、残っていたひとつの鍋でお湯がわかされ、「枝豆」がゆでられたと思ったら、それを女性陣がすり鉢で「ずんだ」にし「ずんだ餅」を作ったのです。適度に甘い餅は別腹でした。

次は、芋煮の残った汁をつかって「うどん」と「ラーメン」が作られます。ベースは芋煮の汁ですが、きちんと味が整えられて、本当にいい味でした。このあたりで橋の下にしいたブルーシートに横になって眠りこける人も出始めます。持ち寄ったお酒、ビール、各地の地サイダーなども人気のようです。

やがて芋煮会のしめは湯せんして溶かしたチョコレートにバナナやポテトチップをつけたお菓子、アイスクリームが登場、大満足の食事が終わりました。準備や様々な知恵をふるってくれた方々に感謝です。

後片付けも全員で行いました。特に近くのスーパーから借りてきた鍋は丁寧に洗いました。かまどとして使った石もじゃまにならない場所に移動、最期は参加者全員で記念写真、ふと時計をみると１６時、あっという間の６時間でした。「また今度」、河原に声が飛び交います。